こどもが まんなか PROJECT

◎まなびの広場　令和7年4月10日発行
偶数月10日発行
令和4年6月10日創刊　通算No.18

2025 4

まなびの広場

―子どもの未来を共に考える―

VOL.18

編集よりご案内

本号から、乳幼児教育実践研究家で保育SoWラボ代表の井桁容子氏による短期連載が始まります。本号では、0歳児からのアタッチメントについてご執筆いただいています。

当機構の活動報告として、令和6年度第4回理事会の会務報告を掲載しています。さらに、3月より配信しているオンデマンドコンテンツやこどもがまんなかしんぶんについてご紹介しています。

今年度は「ECEQ®Hot News」と題し、毎号ECEQ®の最新情報を掲載いたしますので、お楽しみに。

CONTENTS

短期連載❶
『安心・安全な子ども主体の保育とは』その1
■ 井桁 容子氏　（乳幼児教育実践研究家・保育SoWラボ代表）

（一財）全日私幼研究機構理事長からのご報告
大切なのは最終学歴よりも、最初の学歴
■ 安家 周一（一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　理事長）

理事会の会務報告

保育の質向上の時代へ
ECEQ®が開く保育の未来～質向上を叶える宝箱～
■ 藪 淳一（一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　ECEQ®・評価チーム長）

【令和7年3月7日開始!】
令和7年度第1期オンデマンド研修59コンテンツが配信中です。

こどもがまんなかしんぶんのご紹介
家庭へ私たちの思いを伝えるしんぶん
■ 高尾 恵子（一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　広報委員長）

機構からのお知らせ
●ECEQ®Hot News
●令和7年度 賛助会員企業について

一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

短期連載 1　『安心・安全な子ども主体の保育とは』その1

～心の育ちに重要な0歳児期からのアタッチメント～

乳幼児教育実践研究家・保育SoWラボ代表／井桁 容子

0歳児保育の子どもの心の育ちへの影響

まだ言葉を持たない乳児の生活の中の学びは、静かな世界にあります。仰向けでいるときに、天井に映る光に気づいたり、動かした手に偶然そばにあったガーゼのハンカチに触れたことから意識的に掴むようになったり…。そばにいる大人が気づかなければ、無かったことになってしまう世界です。また、「０歳児は遊んであげる存在」という感覚を持つ保育者は、この静かな世界に気づかずに自分の感覚だけで踏み入ってしまうために、乳児にとっては、一瞬でかき消されてしまう儚い世界とも言えます。

このように人生のはじまりからヒトの赤ちゃんには本来備わっている力があります。そのことを十分に理解して０歳児を人として尊重し、尊厳をもって応答的に温かく関わることができることがその後の育ちに影響するという認識をもっていることが基本的な保育者の専門性と言えます。

例えば､生後３ヵ月の赤ちゃんと大人はどのような｢やり取り｣をするでしょうか？

「やり取り」は、「やり」「取り」ですから、一方通行ではないということです。換言すれば「対話」です。たとえ言葉が話せなくても対話はできるのです。

ここで、保育者Ａ先生の３ヵ月児との「やり取り」の様子を見てみます。

Ｙちゃん（３か月）がベットで過ごしているときの情景です。

「Ｙちゃん、そろそろおしりをさっぱりしましょうか？」とＡ先生はＹちゃんの目をみながら穏やかにゆっくり話しかけた後、Ｙちゃんの表情を見ます。「おしり、きれいにしようね」ともう一度言うと、少し間が空いたのちに（２～３秒)、Ｙちゃんが「うく～っ」と、Ａ先生の目を見ながら声を発しました。「そうなの～。やっぱりきもちわるかったのねえ」と、また笑顔でゆっくり声をかけるとＹちゃんもゆっくりと「あぅ～」とまるで答えるように声を発しました。「そうでしたか。やっぱり気持ち悪かったですか。では、替えましょうね」と言いながら、Ｙちゃんを抱き上げて、おむつ交換台へ。交換中も「いっぱい出ていたね。」「これでさっぱりね」とＡ先生はその都度Ｙちゃんの目を見ながら話しかけ、ズボンをはかせるときには、「今日はおしゃれさんなの？すてきなおズボンですね」と笑顔で話しかけました。Ｙちゃんは、手足を動かしながら心地よさそうです。

Ａ先生とＹちゃんのこの時の「対話」は、数秒、数分のことです。実は乳児の心の育ちは、この数秒を大切にしてもらえるかどうかで変わっていくと言っても過言ではありません。乳児は様々な情報に即時反応ができないために反応が遅いだけで、感じていない、分かってない訳ではないのです。周囲からの働きかけに対して、ゆっくりと脳のなかで情報を処理して反応するまでの時間が必要なのです。この数秒のていねいな「対話」こそが、安心・安定を保障し、関わりを持つ保育者への信頼感となり、保育室から余分な泣き声が減ります。それだけでなく、このような大人の「対話」の姿勢は、人との関わりの心地よさとして傾聴の姿勢を育み、他者への興味関心に広がり学びに繋がって、コミュニケーション力が育つ土台となっていくのです。

反対に０歳児の保育が、保育者主導で一方的な関わりが多い場合は、１歳児期の心の安心・安定にも響き「イヤイヤ期」が長引いたり激しさを増したりするので、「困った子」とラベルを貼られて２歳、３歳･･･とつながってしまうことがあります。あるいは、自分の思いを表現するよりも、保育者の意図を読もうとする習慣が身に付いて、年長児になっても自分の思いを表現したり相手に伝えたりすることがうまくいかず、「いや」「だめ」「きらい」というような単純な言葉のやり取りや泣いたり騒いだりするしかできないために衝動的になりやすく、トラブルの多い関係性が増えてしまうことに繋がっていくようになります。

子どもと保育者の距離とアタッチメント

さまざまな園で０歳児の保育室をのぞかせていただくときに感じるのが、遊んでいるときの保育者と乳児の距離の近さです。入園したばかりで、環境や人に慣れていない時期に安心への配慮として意図的に近くにいるということではなく、年度の終わりで保育室の人や雰囲気に

（撮影：小西貴士）

慣れ親しんだ時期でも見受けられる光景に違和感を覚えます。この様子は、「遊んであげないと遊べない」「何もわかっていない」と乳児を捉えている保育者が、「遊んであげる」「遊び方を教える」「危険から守るために」という理由から距離が近くなってしまうのではないかと考えます。安心と安全が保障された温かい関わり（アタッチメント）のある環境が乳児にとって重要であることは間違いありません。しかし、それは一方的に大人の思いだけで膝に乗せたり抱っこをすることではありません。スキンシップとアタッチメントを捉え違いしやすいので注意が必要です。乳児にも、一人一人異なった興味・関心やその子どもなりの発達のペースがあります。しかし、このような自分の興味・関心と一致しない関わりが多いと、乳児自身がもともと持っている表現することや探索する意欲は奪われていき、受け身の姿勢になります。そうなると、０歳児は一日の中で保育者の動きを目で追う時間が圧倒的に多くなります。保育者の動きが、自分の生活に様々に影響することを感じ取っているゆえの保育者を分かろうとするまなざしと言えます。本来は、心身が安心・安定していれば、例えば、窓の外の木々のざわめき、光、風、友達の遊びや保育室にある様々なおもちゃなど自由に見たいものに目も気持ちも向けることが主体的な遊びです。しかし、残念ながら保育者の存在や一挙手一投足を常に意識して目で追うほうに感覚を使って暮らしている０歳児は少なくないのです。

もしかすると、このような０歳児の状況は、その後の集団生活に役立つと捉える人もいるかもしれませんが、実は本当の意味の社会性（コミュニケーション力）は育ち損ねます。自分の感じたことを表現して受け止められていくアタッチメントが満たされる中で自己が育ち、他者の思いに気づく社会性が育っていくからです。

加えて言えば、常に保育者を求める、そばにいないと不安を感じるようになっていることを「愛着関係が成立している（アタッチメントが満たされている）」と捉え違いをしていることはないでしょうか。本来は子どもが安心して大人から離れて自分のしたいことに取り組める状態がアタッチメントが満たされている姿です。

おわりに

こども家庭庁の「こどもまんなか社会」「はじめの100か月の育ちビジョン」が公表されましたが、これは子ども一人一人のウェルビーイングを高めていくことから人とのつながりの大切さや心地よさ、心強さを育んでいくことにあるのだと思います。“集団生活を身に付けさせるために乳児期から教えること”が先行する０歳児保育のスタートにならないように気を付けたいところです。この感覚は、ややもすると保護者も持ちやすいので、これからの時代は保育者が根拠をもって意識改革を心がける必要があるでしょう。

ここ数年、全国のあちらこちらから「年長さんの育ちが幼い」という保育者の声が聞こえてきます。そのような子どもたちの多くが０歳、１歳児期から園で過ごしている子どもたちだということです。人格の土台が作られる低年齢児の保育は、温かく応答的な関わりと環境の中で、０歳児期から子ども主体の保育（アタッチメントが満たされた状態）がその後の心の育ちに重要だという認識をもって取り組んでいただきたいと思います。

私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。

Gakken　フレーベル館　JAKUETS

ひかりのくに　世界文化ワンダーグループ　Child チャイルド本社

～(一財)全日私幼研究機構理事長からのご報告～

大切なのは最終学歴よりも、最初の学歴

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　安家 周一

1）乳幼児期の学びの重要性

修了卒園の時期を経て、瞬く間に入園がやってきます。私が園長だった時、卒園式で保護者への最後の話の中で必ず言う言葉がありました。「世間では、最終学歴が幅を利かせますが、人間にとって一番大切なのは最初の学歴です。将来履歴書を書くことがあれば、必ず最初の学歴に卒園名をお書きいただきたい」。少しどよめきが起こりますが、どのような乳幼児施設で子どもが育ったのか、そこで保護者はどのような学びがあったのかによって、子どもの一生は決まります。ヘックマンのペリー就学前プロジェクトの縦断調査でも明らかにされ、ご存じのことかと思います。

若年層の貧困や孤立死などが報道されます。誰にも発見されずに１年を経過している、信じられない事実です。何らかの事情で就職活動に失敗し、結果的に仕事をして自活することができなかったのでしょうか。家族は？友達は？と考えてしまいます。保護者は、我が子に将来社会の中で人と共存し、自立して生活してほしいと誰もが願うでしょう。結果的にそのように生きる人と、そうすることができにくい人が存在することも事実です。なぜ？運が悪かったからなのか、原因は単純ではないように思いますが、現実は過酷です。

2）子どもと保護者や保育者とのコミュニケーション

子どもは幼いころに親(主たる養育者)を通して他者とかかわるときに無意識に使われる対人関係の方法や技術などを自然に身につけます。周りから受容されて育った子は、自分が困ったら相手に助けを求め、上手に依存するコミュニケーションスタイルも学習します。

反対に厳しいしつけなどで拒絶され受容されずに育った子どもは、本当に頼りたいことがあっても他の人に言えずに黙ってしまう。泣き叫ばなければ要求に応じてもらえなかった子は、ちょっとでも嫌なことや困ったことがあると感情的になり、必要以上に激しく主張し周りから恐れられたり敬遠されたりしてしまう。信頼しあうコミュニケーションを学ぶことができなかった場合、親以外の相手、例えば友人、恋人、パートナーなどに対しても、過剰な遠慮や回避や応答をしてしまう傾向ができあがってしまうともいわれます。

保護者との懇談会でよく話題に出るのが「結婚するまで自分は比較的温和で優しい方だと思っていた。でも結婚してから、こんなに意地悪で怒りっぽい性格だと知った」というのがあります。訳も分からないが腹が立ち子どもにあたってしまう。夫にもひどい言葉をかけている自分を後で反省する。特に、自分の余裕がない時に限って子どもはぐずぐずしてイライラさせる、という訴えも多くあります。怒りや恨み、攻撃性など、自分の中に内在する様々な感情を理解し受け入れるのはとても難しいことですし苦しいことでもあります。

3）将来求められる力と乳幼児教育の役割

集団生活での自信あふれる自己発揮や能動性は、まさしく小さいころから養育者に培われた自分を信頼する力＝自信が強いほどきっと将来頼もしく育つことでしょう。反対に、家では親の顔色を窺って聞き分けのいいお利口さんなのに、変装して入った幼稚園の保育参加※で見た我が子の姿は、クラスをかき乱しわがまま放題で傍若無人な姿があった場合、保護者はうろたえ、帰宅後そのことを強く怒ってしまうこともあります。保育参加で変装することは子どもには内緒のことで、話してはいけないという決まりがあります。そのため、むき身の我が子がみえるのです。

現在の子どもたちが社会で生き活躍する2050年ころ、地球はどうなっているのでしょうか。人工知能やロボットの台頭で工場でのものつくりや単純労働、あまり頭を使わなくてもできる仕事を人間が担うことはないでしょう。男女とも、相手の思いをイメージすることや、人種間の交流や環境問題、SDGsなど、人が共存し平和に生きることは今以上に求められることでしょう。人と器用に生きていく力が真に必要です。

人の性格の形成は子どもが親の周りで生きる10歳くらいまでにどのように育てられたかで決まるのだと思います。それ以降は社会や人の荒波の中で、下手でも一人で泳がなければなりません。速くなくてもいいのです、自分なりにゆっくり、確実に泳ぎ切る力はやはり乳幼児期がカギです。保護者の皆さんに対して様々な働きかけが可能で有効な時期はほぼ乳幼児期で終わります。

この時期の乳幼児教育施設の大きな役割は、子育てに悩み奮闘する保護者と園が、心を一つして学びあうことで、まさに園長の仕事はこれに尽きると思います。

※「保育参観と保育参加」当園では30年ほど前から保育参観ではなく、保護者に保育に参加していただく機会を設けています。特に低年齢は親だと判明すると依存が大きくなり、普段の様子を見ていただけないことから、変装をしていただき、食事までの午前中は生身の我が子を知っていただく機会としています。終了後、意見や感想を提出いただきます。

令和7年度事業計画案・収支予算案などを承認

● 3.17 第4回理事会

３月17日、第４回理事会がオンラインにて開催され、理事20人が出席しました。安家周一理事長が議長となり、議事録署名人は、内野光裕理事、下苙敏大理事が選任されました。議事内容は以下の通りです。

【決議案件】

1.令和６年度補正予算の承認の件

事務室より令和６年度補正予算について説明がありました。園児数減少等の影響による賛助会費の減収、オンデマンド研修受講者の増加による受講料の増収、各委員会やチームがオンラインでの会議の開催による委員会開催事業費支出の減少等、当初予算からの変動理由が説明されました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

2.令和７年度パートナーシップ協定別紙の承認の件

令和６年度との変更点がシステム利用料の在り方とECEQ®コーディネーターフォローアップ研修会の開催方法であることを説明しました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

3.令和７年度事業計画の承認の件

岡本潤子教育研究委員長より、第16回幼児教育実践学会の開催予定、オンデマンド研修の実施予定、ゆたかなまナビの今後の開発項目の検討、今後のECEQ®の推進等について、高尾恵子広報委員長より、こどもがまんなかしんぶん、まなびの広場の今後の発行や第17回ようちえん絵本大賞の実施等について、加藤篤彦専務理事より、公益法人格再取得に向けた取組み、安定的な収支構造の検討等、令和７年度事業計画の説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

4.令和７年度収支予算の承認の件

事務室より令和７年度収支予算について科目名の変更、概要の説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

5.賛助会員入会の承認の件

事務室より賛助会員入会の説明があり、有限会社さわだスポーツクラブの入会が満場一致をもって承認されました。

6.評議員選定委員会外部委員の承認の件

令和７年５月に開催する定時評議員会をもって、現評議員の任期が終了することにともない、次期評議員選任のための評議員選定委員会の設置について事務室より説明がありました。評議員選定委員会のうち外部委員の選任について、安家理事長より東京大学大学院教育研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）特任教授の野澤祥子氏、大阪教育大学総合教育系教授の中橋美穂氏、２名の提案がありました。審議の結果、満場一致をもって上記２名が外部委員として承認されました。

7.令和７年度第１回評議員会開催の承認の件

議長より令和７年度第１回評議員会開催について説明があり審議の結果、満場一致をもって承認されました。

【報告案件】

1.業務執行理事からの執行報告

業務執行理事より業務執行状況について報告がありました。

宮下友美恵副理事長より令和６年度全国教育研究担当者会議の開催報告、令和６年度ECEQ®コーディネーター養成講座の開催報告ならびに令和７年度ECEQ®コーディネーター養成講座の開催予定、第16回幼児教育実践学会の申込受付や学会誌の作成について報告されました。

安達譲副理事長よりオンデマンド研修の配信状況について３月７日より５９コンテンツを配信していること、令和７年度ゆたかなまナビシステムの開発項目の検討状況について報告されました。

川名マミ副理事長より令和６年度のまなびの広場、こどもがまんなかしんぶんの発行状況と令和７年度の賛助会員入会申込を受け付けていることについて報告がありました。

事務室との連絡会の実施状況や公益認定再取得に向け、公益認定法の改正に伴う申請内容の確認や整理を行っていることについて報告をしました。

安家理事長より執行役員会と拡大運営協議会の開催状況や、全日本私立幼稚園連合会執行部とパートナーシップ協定別紙の内容の調整を行ったこと、今後の事務室体制について報告がありました。

令和7年度事業計画書・収支予算書はこちら

（専務理事　加藤篤彦）

ECEQ®が開く保育の未来～質向上を叶える宝箱～

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　ECEQ®・評価チーム長／藪 淳一

「ECEQ®を通して自園の良さを知れたこと、たくさんの気付きがあったこと、自分たちも主体的に動いていこうと思えたことは、何物にも代えがたい経験となりました。そして何より、先生たちが『保育って楽しい』と再認識できたことが一番うれしいことでした。これから先も、この経験を大切に、保育の振り返りをしながら進んでいきたいと思っています。良いことしかなく、本当に『やってよかったECEQ®』でした。」

これは、令和６年度にECEQ®を実施した龍谷幼稚園（北海道）の「実施園記録」に記載された文章です。コーディネーターを務めた私にとっては、ラブレターのようにうれしいコメントでした。

当機構がECEQ®を開発したのは、平成25年度のことです。スタートして12年が経過し、システムそのものは、アップデートを繰り返すことによってかなり成熟してきました。また、令和６年度末の実施園数はのべ406園、資格を取得したECEQ®コーディネーターは456人に上り、着実に広がりも見せています。

ECEQ®が大切にしているのは、従来の公開保育に散見された「参加者のため」の公開保育ではなく、実施園が何よりも得をする「公開園がまんなか」の公開保育です。ECEQ®は、公開保育当日だけではなく、事前研修や事後研修などのプロセス全体をECEQ®コーディネーターがサポートしますが、各プロセスにおけるワークを通して、園の良さや課題を明確化し、園の現在位置を職員全員で共有することができます。また、参加者に「問い」という視点を与えることによって、実施園が本当に欲しい意見やヒントをたくさん手に入れることができます。多様な意見や保育観との出会いは新たな気付きを生み、この気付きが保育の視野を広くし、保育の質向上の原動力となります。ここに「保育を開く」価値があるのです。ECEQ®は、保育の質向上を導く「新しい時代の公開保育」といってよいでしょう。

保育の質の要素として、「構造の質」「プロセスの質」「アウトカムの質」などが言われますが、私はそこに「園文化の質」を加えてもよいのではないかと考えています。保育をより良くしていこうという共通の目的に向かって、職員全員が、時には楽しさも感じながら一丸となって進んでいく雰囲気のことです。ECEQ®を実施した園の保育者からは、「自園の先生たちと意見交流ができ、人間関係が深まった」という声もよく聞かれます。保育者が経験年数に関係なく自分の意見を出し合い、さらに理想の保育に向かって取り組むべき方向性がクリアになることによって、職員全員が同じ方向に向かって歩んでいく風土が醸成されていきます。ECEQ®は、この「園文化の質」の向上にも大きく寄与するものと考えられます。

国の方針も、ようやく「保育の量」から「保育の質」に転換し、これからは、「評価の時代」が間違いなくやってきます。12年前に当機構がECEQ®を開発した際も、将来を見据え、私立幼稚園の団体として評価に向けての手を打っておく必要があるという考えがありました。ECEQ®・評価チームでは、ECEQ®を活用した第三者評価のあり方についても、研究を進めています。

ECEQ®に興味がある方は、ECEQ®のホームページで詳細をご確認ください。また、今年度の実施申請受付期間は５月末までですので、各都道府県団体までお問い合わせください。

最後に、ECEQ®のアドバイザーも務めていただいている大妻女子大学の岡健先生が、最近の打合せの中でおっしゃっていた印象的な言葉を紹介しておきます。「園内研修は熱意だけでは難しい。アクティビティやフレームワークが必要で、それが詰まっているのがECEQ®」。ECEQ®は、保育の質向上のための素材が詰まった宝箱といってもよいでしょう。宝箱のふたを開けた先に広がっているのは、キラキラした園の未来、子どもたちの未来です。

ECEQ®に関して詳しく知りたい方は下記URLまたは右記QRよりご確認ください。
（https://youchien.com/eceq/）

オンデマンド研修に関するお知らせ

【令和7年3月7日開始!】令和7年度第1期オンデマンド研修 59コンテンツが配信中です。

ゆたかなまナビは全国の先生方によりよい学びの機会を提供することを目的に、各地区から提供された優良研修コンテンツを中心に様々な研修コンテンツを配信しています。

研修会場への距離や受講する時間が合わないなどのハードルを超えてだれでもいつでも学びたい時に学べる環境を整え、全国の園の質の高い教育・保育を支えてまいります。

≪オンデマンド研修概要≫

●申　込　期　間：令和7年3月7日（金）10時～令和8年2月26日（木）17時
●配　信　期　間：令和7年3月7日（金）10時～令和8年2月27日（金）17時
●申　込　方　法：教職員登録の上、ゆたかなまナビよりお申し込みください。
●研 修 ス タ ン プ：研修受講後、３択５問の設問に回答し、80%以上の正解で研修スタンプを取得することができます。（追試は２回まで）
●処遇改善等加算Ⅱ：対応しています。
●受　講　方　法：お申込後、ゆたかなまナビマイページに掲載の動画視聴URLより受講ください。
●受　　講　　料：研修によって異なります。ゆたかなまナビでご確認ください。
●支　払　方　法：クレジットカード決済／コンビニ決済

	講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
NEW	不適切保育を教訓とした「適切保育」への道ー法的な見地を踏まえてー	吉永　公平　（春日井市総務部　参事／弁護士）	2.5	A1
NEW	幼稚園における熱中症予防～知って防ごう熱中症～	寄本　明　（滋賀県立大学　名誉教授）	2.0	A2
	子どもの未来を育む食育の重要性	中山　玲子　（京都女子大学　副学長／栄養クリニック副クリニック長）	1.5	A2
	夏に向けての保健活動	福島　美由紀　（社会福祉法人あけぼの事業福祉会豊中あけぼのこども園　看護師）、舩木　桃　（学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園　看護師）、小倉　理沙　（社会福祉法人あけぼの事業福祉会あけぼのぽんぽここども園　看護師）	0.5	A2
	乳幼児理解　生活と遊びを支える保育者の関わり	瀧　薫　（大阪芸術大学短期大学部保育学科　教授）	1.5	A2
	就学前施設の保健指導～保健指導の苦手を克服しよう！～	舩木　桃　（学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園　看護師）、福島　美由紀　（社会福祉法人あけぼの事業福祉会豊中あけぼのこども園　看護師）、小倉　理沙　（社会福祉法人あけぼの事業福祉会あけぼのぽんぽここども園　看護師）	0.5	A2
	リスク・マネジメント	飛田　隆　（茨城キリスト教大学文学部児童教育学科　教授）	2.0	A3
	災害時保育教諭が『セルフコントロール』のためにできること	山口　慎介　（おおいたパパくらぶ代表／大分県防災アドバイザー　他）	1.5	A3

講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
保育事故防止の取り組みについて［改訂版］	鮎川　剛　（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	1.0	A3
遊具安全点検について	鮎川　剛　（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	0.5	A3
バス運行の安全確保について	平野　豊　（株式会社ジャパンリリーフ）	0.5	A3
保育環境としての通園バス～安心・安全の先を目指して～	境　愛一郎　（共立女子大学家政学部児童学科　准教授）	1.0	A3
NEW 「いいんだよ」は魔法のことば～寛容の精神が醸成される社会へ～	齋藤　眞人　（学校法人立花学園立花高等学校　校長）	1.5	A4
健やかな成長のために～幼児期から摂りたい不足している栄養～	岡部　聡子　（郡山女子大学家政学部食物栄養学科　教授）	1.0	A5
子どもの育ちと学びを支える遊びの指導について～豊かな学びを目指して～	江玉　睦美　（東九州短期大学幼児教育学科　教授）	1.5	B3
植物遊びのススメ	出原　大　（むぎの穂保育園　園長）	1.0	B3
豊かな遊び体験を通して自ら考え自ら判断して自ら行動する子供を育てるために	佐々木　豊志　（青森大学総合経営学部　教授／事業構想学　博士　他）	2.0	B3
NEW 労務上級1	安岡　知子　（株式会社福祉総研KYOSTAコンサルチーム／社会保険労務士法人人財総研　他）	0.5	B4
保育現場でなぜICTを導入する必要があるのでしょうか？	西尾　真吾　（VISH株式会社　執行役員）	1.0	B4
幼稚園教育（保育）が面白く、楽しくなるためには？～仕事を続けるために～	汐見　稔幸　（東京大学　名誉教授）	2.5	B4
社会人マナー①接遇＆業務の遂行の基本動作研修	斎木　里奈　（株式会社こども保育環境研究所）	1.5	B4
ECEQ® と幼児教育の質評価	藪　淳一　（（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構教育研究委員会ECEQ®・評価チーム　チーム長）、天野　美和子　（東海大学児童教育学部児童教育学科　講師）、矢崎　桂一郎（国立教育政策研究所幼児教育研究センター　研究員）、淀川　裕美　（千葉大学教育学部幼児教育講座　准教授）	1.0	B5
「主体的な子どもの育成をめざして」～サークルタイムはじめました～	松下　瑞良　（認定こども園湯浅幼稚園　園長）、中川　摩耶　（認定こども園湯浅幼稚園　保育教諭）、土橋　紀香　（認定こども園湯浅幼稚園　保育教諭）、上田　美奈子　（認定こども園湯浅幼稚園　副園長）、安達　譲　（大阪教育大学　非常勤講師／せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園　園長）	1.0	B5
子どもと一緒に考える保育とは	司馬　政一　（幼保連携型認定こども園せいめいのもり　園長）、柳田　未那美　（幼保連携型認定こども園せいめいのもり　教諭）、佐藤　瑞姫　（幼保連携型認定こども園せいめいのもり　教諭）、田中　住幸　（札幌大谷大学短期大学部保育科　学科長／准教授）	1.0	B5
個と集団のバランスから考える自律した子どもを目指す幼児教育	立田　祐理　（恵庭幼稚園　指導教諭）、渡邉　日向子　（恵庭幼稚園　年長組主任／教諭）、藤澤　侑香　（恵庭幼稚園　教諭）、井内　聖　（北海道文教大学　客員教授）	1.0	B5

	講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
NEW	職場における同僚性	飛田　隆　（茨城キリスト教大学文学部児童教育学科児童教育コース　教授）	2.0	B6
	新任保育者の育ちを支えるために―ともに学び、育ち合う園を目指して―	安達　譲　（せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園　園長）	1.0	B6
	これからの私立幼稚園の在り方を考える①園長のリーダーシップと組織運営	上田　敏丈　（名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間の成長と発達分野（社会と教育）教授）	2.5	B6
	ミドルリーダーの役割とマネジメント	佐々木　晃　（鳴門教育大学大学院学校教育研究科幼児教育コース　教授）	1.5	B6
	幼稚園における２歳児の保育―その多様性と質について考える―	古賀　松香　（京都教育大学教育学部幼児教育科　教授）	1.5	C2
	「社会に開かれた教育課程」ということを考える	汐見　稔幸　（東京大学　名誉教授）	2.5	C3
	学校法人会計の基礎知識	守屋　俊晴　（公認会計士・税理士守屋俊晴事務所　所長）	1.0	C3
	学校法人会計（中級編）	守屋　俊晴　（公認会計士・税理士守屋俊晴事務所　所長）、石橋　もと子　（公認会計士・税理士守屋俊晴事務所　税理士）	1.5	C3
NEW	学校法人会計（上級編）	守屋　俊晴　（公認会計士・税理士守屋俊晴事務所　所長）、石橋　もと子　（公認会計士・税理士守屋俊晴事務所　税理士）	1.0	C3
	帳簿書類の取り扱いについて	石橋　もと子　（公認会計士・税理士守屋俊晴事務所　税理士）	0.5	C3
NEW	幼児期の造形表現	佐川　早季子　（京都教育大学教育学部幼児教育専攻　准教授）	2.0	D1
	「子ども“が”ケアする世界」を考える	岩田　恵子　（玉川大学教育学部乳幼児発達学科　教授）	1.0	D2
	インクルーシブ教育を考える～特別な支援が必要な子どもたちと共にある保育～	加藤　篤彦　（（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　専務理事）	3.0	D3
	発達の個人差を踏まえた幼児教育	赤塚　めぐみ　（常葉大学保育学部保育学科　准教授）	1.5	D3
	特別支援教育に利用する心理学	内山　敏　（聖隷クリストファー大学国際教育学部こども教育学科　准教授）	2.0	D3
	支援の必要な子どもとの関わり～保育・教育にできること～	今村　幸子　（鹿児島女子短期大学児童教育学科　講師）	1.0	D3
NEW	乳児発達を見る～シリーズ1-1 ～	水谷　豊三　（学校法人成城学園認定こども園日吉幼稚園　理事長／園長）	1.0	D4
NEW	乳児発達を見る～シリーズ1-2 ～	水谷　豊三　（学校法人成城学園認定こども園日吉幼稚園　理事長／園長）	1.5	D4
NEW	乳児発達を見る～シリーズ1-3 ～	水谷　豊三　（学校法人成城学園認定こども園日吉幼稚園　理事長／園長）	1.5	D4
	若い保育者に挑んで欲しいこと～こどもの主体性を育む保育を考える～	富永　宏　（学校法人伊敷町学園認定こども園伊敷幼稚園　理事長）	1.0	E2
NEW	保育の環境構成	石田　淳也　（常葉大学保育学部保育学科　助教）	1.5	E4

	講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
	子ども主体で遊びが充実するための環境構成と保育者の在り方	阿南　寿美子　（西南女学院大学短期大学部保育科　准教授）	1.0	E4
	身近にいる生き物（虫）と子どもたちとのかかわりを各園の先生たちと考えよう	丸山　宗利　（九州大学総合研究博物館　准教授）	1.5	E4
	園での野菜栽培Ⅰ 基礎編	鮎川　剛　（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	1.0	E4
	園での野菜栽培Ⅱ 応用編	鮎川　剛　（全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会）	1.0	E4
	わたしはわたし　みんなのなかのわたし	安家　周一　（（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　理事長）	1.5	E5
NEW	次の保育につながる記録のあり方と保育の振り返り	上村　裕樹　（東北福祉大学教育学部教育学科初等教育専攻　准教授）	1.5	E6
NEW	幼児期の育ちをつなぐ架け橋期のカリキュラム開発に向けて	椋田　善之　（関西国際大学教育学部教育福祉学科　准教授）	2.0	F1
	専門機関の役割と連携	金子　信夫　（発達相談支援事業GoldKids　代表）	1.0	F1
	未来を育てる幼児教育―これからのキーワード―	肥後　功一　（島根大学　名誉教授）	1.5	F1
	（幼保小連携）美しいバトンパスで幸せに駆け抜けるために～「幼保小の架け橋プログラム」から捉える幼小連携～	秦　潤一郎　（別府大学短期大学部初等教育科講師）	1.5	F1
	子どもとの対話につながる大人の対話	高橋　ゆう子　（大妻女子大学家政学部児童学科　教授／児童臨床研究センター　所長）	1.5	F1
NEW	親を支える保護者支援：発達が気になる子の保護者に寄り添うために	嶋野　珠生　（富山短期大学幼児教育学科　教授）	2.0	F2
	家族の子育て・パパの子育て～みんなで子育てを考えよう～	小崎　恭弘　（大阪教育大学教育学部健康安全教育系　教授）	1.0	F2

令和7年6月に新コンテンツを配信する予定です。
ゆたかなまナビをチェックして、研修の受講をご検討ください!

配信コンテンツにはすでに都道府県私立幼稚園団体等で配信したコンテンツも含まれておりますので、お申し込み時にはご注意ください。詳細については右記のQRよりご確認ください。

保育施設導入実績 No.1
IP無線機 伝シリーズ
― ニシハタシステム ―
災害対策で
2,500園以上が導入!

園業務のお悩みを
IP無線機で解決!
無料お試し実施中!
0120-775-956
株式会社 ニシハタシステム

こどもがまんなかしんぶんのご紹介

家庭へ私たちの思いを伝えるしんぶん

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　広報委員長／高尾 恵子

以前発行していた「PTA新聞」が「こどもがまんなかしんぶん」に生まれ変わって４月号で３２号の発刊となります。「まなびの広場」をご覧くださっている園長先生や教職員の先生方、どれくらい見てくださっているでしょうか。幼児教育に携わる私たちが家庭に直接届けることができる唯一の刊行物として、広報委員会が中心となり、企画を練りながら、毎号発刊しています。

「こどもがまんなかしんぶん」は機構の賛助会員になってくださった方々にお礼としてお渡しするものとの位置付けですが、子どもたちの発育になくてはならない家庭との連携に大切なものと捉えて作っています。

しんぶんは毎号、「子ども×何々」とテーマを持ちながら、企画を進めています。１面は各界で活躍されている人をピックアップ。有名人ばかりでなく、心に響く活動をされている人に登場していただいています。中面は教育的視点からの特集や、時には保護者の気持ちになって子どもと自然を楽しむ特集など、多岐に渡っています。４面はこどものつぶやき言葉の「子どもの目」のコーナー、子どもと一緒に楽しむクッキングや製作など充実した内容になっています。

長年続けている「ようちえん絵本大賞」（令和６年度で16回になります）は広報委員の先生方が実際に手に取り、子どもたちに読み聞かせたいと推薦した本の中から互選しています。令和６年度の「ようちえん絵本大賞」は２月号に掲載させていただきました。選ばれた絵本はどれも素晴らしいものばかり。絵本は読み聞かせてもらうことに意味があると言われています。これらの絵本がお母さんたちの絵本を選ばれるときの参考になれば嬉しく思います。

新年度の当機構の賛助会員の募集が始まっています。どうぞ当機構の役割をご理解いただき、賛助会員になっていただくようお願いします。賛助会員になっていただいたお礼に届くこのしんぶんは、私たちの思いを家庭に伝える唯一のもの。未来の日本を担う子どもたちのために、このしんぶんをお役立てくださるよう、切に願っています。

Hot News

令和６年度 ECEQ® 実施認定園数

令和６年度は幼児教育の質向上を目指す全国各地の62の園をECEQ®実施園として認定し、これまでにECEQ®を実施した園数はのべ406園となりました。ECEQ®実施園一覧を当機構HPに掲載していますので右記QRよりご確認ください。

ECEQ® のなにがいいの?

養成講座を受講し資格を持ったECEQ®コーディネーターがナビゲート（支援）し、公開保育前から公開保育後のふりかえりまでを園内研修として行う5STEPプロセスで行います。公開保育だけをやりっぱなしにしません。 5STEPを通して話しあいの方法や研修のスキルも学べます。ECEQ®について詳しく知りたい方は右記QRよりHPをご確認ください。

ECEQ® を実施するには?

幼稚園・認定こども園等、幼児教育に関わるすべての園・施設で実施可能です。 ECEQ®を実施したいと思った方は右記QRより申請手順をご確認ください。実施申請締切は５月末日となります。

令和７年度 賛助会員企業について

子どもたちの幸せと幼児教育の発展を願って設立された当機構の事業趣旨や内容に賛同いただいた企業様等に、賛助会員として事業に支援いただいております。

Chubb損害保険株式会社	損害保険ジャパン株式会社
東京海上日動火災保険株式会社	三井住友海上火災保険株式会社
株式会社GakkenSEED	株式会社フレーベル館
株式会社ジャクエツ	ひかりのくに株式会社
株式会社世界文化ワンダーグループ	チャイルド本社
株式会社フォトクリエイト	株式会社ジャパンリリーフ
日本総合サービス株式会社	株式会社福音館書店
株式会社ビデオソニック	株式会社みつばモビリティ
株式会社エンファム	税理士法人ゆびすい
東京ガス株式会社	株式会社矢部プロカッティング
株式会社ニシハタシステム	VISH株式会社
株式会社エコテック	有限会社さわだスポーツクラブ

●編集責任者：高尾恵子 ●発行者：一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
●〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館4階 TEL 03-6272-9232 FAX 03-6272-8363